

韓国と日本のゴミ問題の比較と問題点について

人間科学部 コミュニケーション学科 2年 増渕凜

韓国・大邱カトリック大学

1. テーマについて調査するきっかけと理由

今回の交換留学期間、私は韓国のゴミ問題について SDGs の目標である「つくる責任・つかう責任」から調査を行ってきました。このテーマを調査しようと思ったきっかけは、韓国では生ごみを一般ゴミとは分けて捨てないといけないということを聞いたからでした。日本でも分別しなくてはならない自治体もあるかもしれませんが、私の住む地域にはそのようなルールはないためとても不思議に思いました。また、韓国のドラマを見ている際に作中で地域共用の生ゴミ乾燥機のようなものが出てきたことがありました。このような経験から、もしかしたら生ゴミに対する考えや処理方法が日本とは異なるのではないという仮説を立てて今回の調査のテーマにすることにしました。また、日常の習慣などからも日韓の違いがあるのではないかと思い、日常生活の違いを含め調査を進めたいと思いテーマを決定しました。

2. 調査計画と反省

期間は、2023年3月から6月まで(4カ月間)で、開始当初韓国のゴミの分別方法から観察し、韓国の生ゴミを捨てるうえでの問題点、日本と韓国のごみ問題の比較、まとめという順序で進めようと思っていましたが、今回の調査計画を立てる上での反省点がいくつかあります。

一つ目は、調査の範囲を限定していなかったということです。日本と同じで、自治体によりゴミの分別方法やゴミ出しのルールが違い、範囲を限定して比較した方がその地域の特色と合わせて比較できたために範囲を限定すべきだったと思います。

二つ目は、生ゴミと決めて計画をしてしまったことです。生ゴミの捨て方について分別方法やルールの記事が出てきましたが、私たちが留学にきた慶山市のものではなく、ソウル市のものしか見つかりませんでした。そのため学校周辺のゴミ出しルールではないものを調査してしまいました。このように、生ゴミと限定するのではなく、3号で調査したような学校周辺のポイ捨て問題なども視野に入れ、ゴミ問題として最初から調査を進めればよかったと思いました。

以上の二点が今回の調査を行う上での反省点です。プロジェクト調査のように解決方法まで提示するのか、調査だけを行うのか、すごく悩みましたが、毎回の報告書がうやむやになってしまった部分があったので、これからこのような報告書を作成する際は、先を見越した計画を立てられるようにしたいと思います。

3. 調査結果

到着から1か月目は韓国のゴミ分別方法を調査しました。ここで見つけた日本と違う点は、リサイクルと分別の区別の違いでした。日本ではペットボトルや缶、瓶などリサイクルをするためにゴミを分けている家庭が多いと思いますが、韓国では、リサイクルするためという意識があるというよりは、必ず分別するものという認識があると感じました。ですが、ゴミの分別方法や分別内容に特に違いは見られなかったと思います。

2か月目までの調査ではゴミの分別に関する課題を調査し見つけました。日本では生ゴミを一般ゴミに捨てる場合がほとんどだと思います。自治体にもよりますが、従量制という制度もないように感じます。しかし、韓国では生ゴミを従量制の袋に出さないといけないという地域もあります。そのため生ゴミを乾燥してから排出するという家庭も多いようです。また、寮内のゴミ捨て場には飲食物ゴミという分類で、バケツがおいてあり、カップラーメンの汁や残ったドリンクの氷などすべて流しには流していけない感じでした。このように生ゴミに対する認識の違いがあるように感じました。

3か月目には、生ゴミではなく町中に目を向け、ポイ捨て問題を調査しました。圧倒的に日本よりもタバコのポイ捨て、ゴミのポイ捨てが多いように感じました。また、カフェでコーヒーを購入する文化があり、プラスチックのドリンクカップがところどころ捨てられているところも見られました。韓国の友達からも日本は歩く道がきれいだと聞きました。ここで見つけた問題点は、そもそも韓国にはゴミ箱がないということです。大邱の市内に出かけても、道端にゴミ箱を見つけることはほとんどありませんでした。そのためポイ捨てをせざるを得ないという状況です。このゴミ箱のゴミを捨てる業者を市が手配しないといけないという点はありますが、ゴミ箱は必要だと思いました。

4. 今回の調査から考えたこと

ゴミ問題という問題は主に、環境に被害を及ぼす問題だと言えます。今地球上で起こっている地球温暖化も環境問題の一つです。私は、今回「つくる責任、つかう責任」のつかう責任を主に調査してきました。使ったものをどう処分するか、これはたくさんものを消費しながら生きる現代人すべてがよく考え、持たなくてはいけない責任です。日本でも韓国でもリサイクルショップなどが展開し、リサイクルをするという意識は向上してきているように思いますが、長く使えるものは高いというのも世界共通です。物価が高騰している現在、高くてもいいものを買うというより、安くたくさん手に入るものの方が手は出やすく、使い捨てるものの方が洗う必要がないため利便性が高いのは確かです。このように環境問題と価格は反しているという風を感じました。韓国でも日本でも価格高騰や賃金が上がらないなどの経済的な問題点がいくつも挙げられると思います。そのためSDGsの目標を一つずつ解決していくのではなく、いくつかの目標を組み合わせて同時に解決した方がよりゴールに近づくのではないかと思います。例えば、1の「貧困をなくそう」と8の「働き甲斐も経済成長も」を通し、経済的に余裕を作ってからより環境に良いものを生産・購入す

ること、または、14の「海の豊かさを守ろう」と15の「陸の豊かさを守ろう」を解決するためにリサイクルやゴミ分別、生産の際に使われる材料などを工夫することで13の「気候変動に具体的な対策を」のためにCO₂の排出やメタンガスの排出による地球温暖化を止められるようにするなどの様々な方法があることに気が付きました。実際に政策を行うのは私たちではないかもしれませんが、私たち一人一人が小さなことから対策をしていけばよりSDGsの目標を達成できるのではないかと思います。

5. 調査を終えて

初めて海外に行き、長期間海外で生活するという初めての経験だらけの中で、SDGsという問題について考えるのはとても大変でしたが、これからも暮らしていく地球をどう守れるか、自分たちがいなくなった後も人間・動物が地球で暮らしていける環境を持続するためにはどうすればいいのか、そこまで深いことが調査できたかはわかりませんが、全員が向き合う問題だと思います。今回はゴミ問題ということで韓国のゴミ問題の実態について調査を行ってきましたが、SDGsを達成していくにはもっと広い分野を見られるようにならないといけないと思いました。そのために日頃から、地球のためにどう行動すればいいのか考えられるようになればいいなと思います。